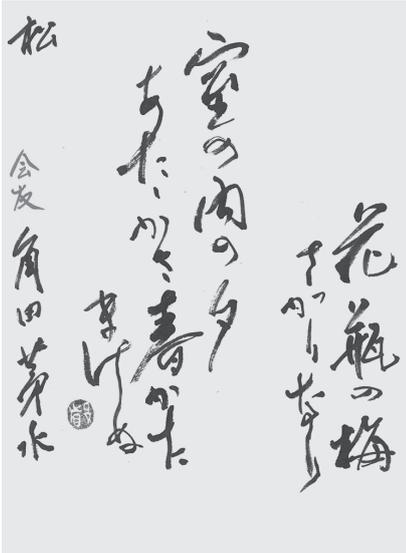


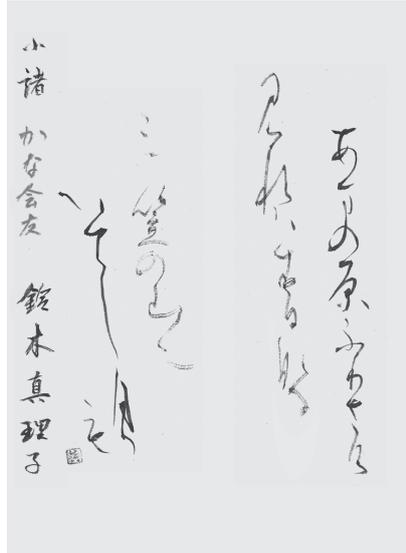
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



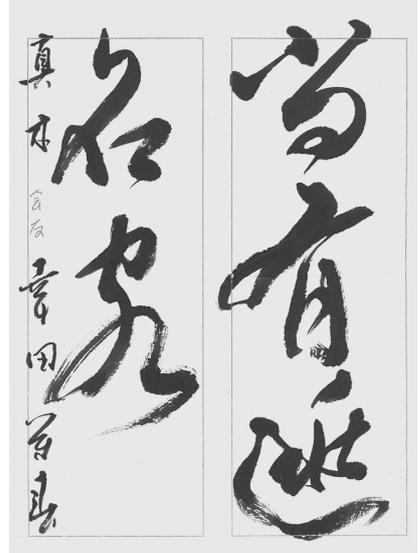
松 角田 茅水 運筆の確かさ、字の太細の変化、漢字とかなとのバランスが良く、余白も十分にとり、墨色も相まって文言を彷彿させる作。
(審査評 東仲 遙郎)

【かな半紙】



小諸 鈴木真理子 淡墨肉厚の線にて情緒感を誘い、潤筆渴筆を巧みに表出して作品に重厚感を与える手法に技を感じる。
(審査評 西口 貴翠)

【漢字半紙】



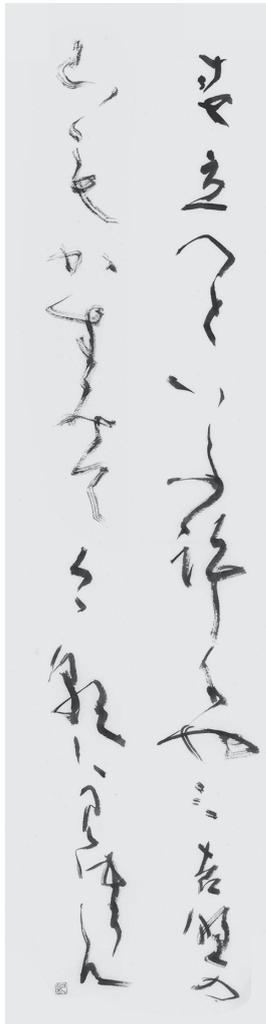
真木 幸田 芳春 紙墨相和し、潤渴・肥瘦をバランス良く配し全体的に格調高く響きやリズムが美しい、敲金撃石の趣ある秀作。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



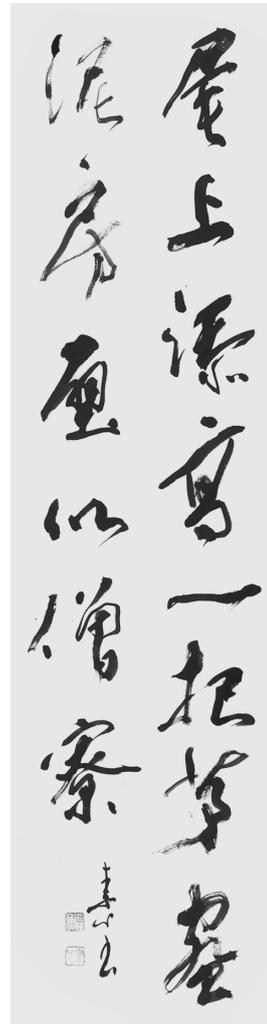
九書 長谷川裕美 字形の大小、字間等の創意ある文字の組み立てが行間の響き合い、流れに効果あり。躍動感ある秀作。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな条幅】



いち 榊原由紀子 深く沈んだ線と、渴筆部の軽やかな線の対比、流れは自然で美しい。確かな筆遣いによる多彩な線は骨力に富み魅了される秀作。
(審査評 中島 永岳)

【漢字条幅】



采女 熊野 素心 線条の太細の変化による引き締った造型が、無理のない行の響き合いを生み、余白を活かした品致の高い佳作。
(審査評 永井 香樹)

3月提出の競書の写真版全作品は、3月26日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

名客 尚有逃 <small>芝心 蓮六 宮崎里美</small>	名客 尚有逃 <small>稲華 進七 松原茂樹</small>	名客 尚有逃 <small>仙里 八八 山田翠圭</small>	名客 尚有逃 <small>水登 山崎 角</small>	名客 尚有逃 <small>彩華 金 山 隆 三 伊 山</small>
--	--	--	-------------------------------------	--

名客 尚有逃 <small>書学 日原 奏</small>	名客 尚有逃 <small>書樂 準七 山家 朱鳳</small>	名客 尚有逃 <small>永登 共 民 榊 千 春</small>	名客 尚有逃 <small>清 清 加 田 璋 博</small>	名客 尚有逃 <small>藤 山 道 全 波 多 望 静 路</small>
-------------------------------------	---	--	---	---

其數 罕窮 <small>松屋 三 神 田 宿 禰</small>	名客 尚有逃 <small>書学 八 林 友 紀</small>	名客 尚有逃 <small>書学 山崎 青 秋</small>	名客 尚有逃 <small>永登 河 合 美 由 紀</small>	名客 尚有逃 <small>九書 垣 田 理 惠</small>
---	--	---------------------------------------	--	--

其數 罕窮 <small>芝心 三 市 川 昌 子</small>	名客 尚有逃 <small>恒 春 六 生 越 六 子 子</small>	名客 尚有逃 <small>洞 布 一 加 藤 志 保</small>	名客 尚有逃 <small>書学 松 原 依 美</small>	名客 尚有逃 <small>M.M. 日 山 真 息</small>
---	---	---	--	--

其數 罕窮 <small>南 堂 五 田 中 名 男</small>	名客 尚有逃 <small>和 月 八 寺 田 忠 美 子</small>	名客 尚有逃 <small>書学 七 小 島 黄 雪</small>	名客 尚有逃 <small>永 登 八 胡 侵 乃</small>	名客 尚有逃 <small>伊 賀 道 全 火 山 田 重 水</small>
--	---	--	---	---

其數 罕窮 <small>F.C 蓮 五 中 尾 友 秀</small>	名客 尚有逃 <small>書学 六 柳 木 新 二</small>	名客 尚有逃 <small>24 柳 根 朋 夫</small>	名客 尚有逃 <small>不 久 八 甲 斐 千 惠 美</small>	名客 尚有逃 <small>發 山 小 嶺 慧 不</small>
--	--	--	---	---

禽 凶 獸 写
一聖
中行 香子

禽 凶 獸 写
書学
荒川 智美

其 軍 數 宗
津長谷川 佳菜

其 軍 數 宗
水戸 高柳浩一

其 軍 數 宗
真紅
木山 洋子

禽 凶 獸 写
子三
山口萌

禽 凶 獸 写
書学
福田 惠子

其 軍 數 宗
17
岡部 紀子

其 軍 數 宗
柏亭
西本 裕子

其 軍 數 宗
百道
新井 有彦子

禽 凶 獸 写
水岳
小林 幸子

禽 凶 獸 写
書学
鶴田 真奈美

其 軍 數 宗
翠
倉田 真子

其 軍 數 宗
水岳
村上 由幸

其 軍 數 宗
書学
二瓶 山崎昭子

禽 凶 獸 写
大柰
小林 雅子

禽 凶 獸 写
文京
神田 沙耶子

其 軍 數 宗
17
余 珮瑛

其 軍 數 宗
五香
重山 登喜子

其 軍 數 宗
高尾 伊藤佳代

禽 凶 獸 写
友和
又吉 真翠

禽 凶 獸 写
栄心
坂 松江

禽 凶 獸 写
書学
西山 京子

其 軍 數 宗
書学
宮川 悦

其 軍 數 宗
中原
立石 明日香

禽 凶 獸 写
書学
板谷 理

禽 凶 獸 写
祥
大熊 あり

禽 凶 獸 写
和同
高原 亮江

其 軍 數 宗
書学
小川 美友紀

其 軍 數 宗
五色
高橋 和美

かな半紙

今月の優秀作品

書学 準五 小島 黄台

大井 六 廣田 光子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

書学 七 佐藤 美起

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

生媛 準会 反宮 橋 美奈

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

巴木 会 依田 蘭 香

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

書学 準五 國吉 利典

書学 準六 級 小谷 鈴 郁子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

書学 準七 級 大野 山 美

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

平島 八千 壽 戸 彩

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

MM 準会 友 芳 冨 島

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

芳水 四 柴 原 かおる

清和 準六 級 武石 有 希子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

新書 準七 級 本間 美子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

永島 八段 佐久間 孝子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

新玉 準会 友 新井 暎子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

書学 四 柳川 美帆

鷹 番 五 中川 由 美子

若書 準七 級 飛澤 壽 出

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

書学 準八 級 金子 聖子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

大門 準会 友 小澤 美 由 美

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

大楠 四 田 田 祝 典

書学 五 福島 一 輝

一人 六 段 宮崎 惠 華

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

新書 準会 友 土田 陽 子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

本波 準会 友 依田 優 美子

天の原
ふりそらえんま
三笠の山

かな半紙

今月の優秀作品

書学
準二段
深谷白枝



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

安土 準二段
富江久美



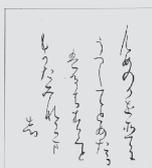
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

中堅 二段
土師朱未



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
準三段
小林奈侘子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

景水 書
清水清永 景苑



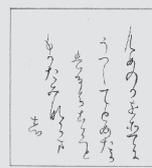
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
準二
野中桃子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
初
是松久志



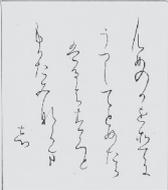
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学 二
根本伊織



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

新書
準三
林田冷子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
準三
佐藤真理



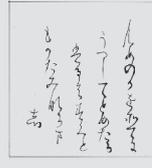
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

和同 準二
山本あや子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

和同 初
小川純子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

春日
準二
山口忠子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
準二段
和泉 詩



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

和同 準三
河野香純



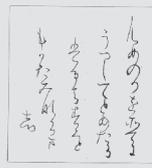
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
準二
河村幸子



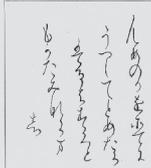
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
初
安藤 雅子



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

白鷺 準二
内山 慈遊



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
二段
加藤潤子



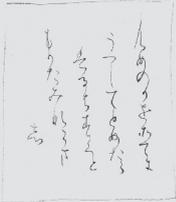
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
三
増田清平



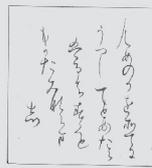
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

草書 準一
齋藤 洋子



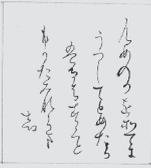
んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

和同 初
石村 和子 悠



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

味生 準二
新山 千鶴



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

書学
二段
伊野美香



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

陽翠 三
徳田 夕樹



んめつをあらま
うつてあたら
あまもあまも
もつたみれうら
さ

南草 七 園田美智子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

一葉七 村磯輝子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

藤路 準八段 國本 豊
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

百合 準五段 外 山 吉代
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

神志 全友 真藤 龍
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

書学 六 吉澤真由美
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

書学 準七 大野真理子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

中原 史 山崎 隆実
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

香川 準五段 高田 佳樹
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

新巻 全友 宮城 幸湖
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

書学 準六段 田村 崇子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

入木 準七 川上 美紀子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

書学 準段 植田 由紀子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

仙水 八段 川口 凍々
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

西宮 全友 中島 美幸
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

N Y 準六 柳 実優
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

書学 準七段 本山 径子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

山口 七 神田 由美 奨
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

あお 八段 増田 香蘭
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

長谷 梨枝 全友 池田 弘 友
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

紅葉 準六 竹入 絹代
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

むら 六 三原 二三 代
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

唐 麻 七 庄 嶺 華
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

新 玉 八 新井 順子
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

書学 小林 美 香
花瓶の梅
梅さかりなり
室の内の夕
夕あたりかき
春かたまけぬ

信長 初 上野澄子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 二段 暮沼史糸

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

八雲 三平 田由香里

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

瀬戸 四段 三浦昌香

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

清芬 五 鶴岡由佳

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 初 藤井直子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

きー 二 西川智子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 三段 國若由美

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

FC 四 中尾友香

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

武里 三 武田鈴子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

楳屋 初 福村歩美

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

如茂 二 笹川香代

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 三 佐藤文

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

委 四 安藤紗更

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

ひ代 五 上村幸治

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

新潟 洋相段 坂井聖華

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 五 山本恵市

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 準三 伊澤任那

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

島行 三 杉山桐也

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

天恵 五 坂本砂都美

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

白千 準和 金澤直子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

那ハ 社 杉田真也

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

千岡 準一 北川貴子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 準五 箭内恵理子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学 準五 小形久美子

本に親しむことは
著者と心の友人に
なることだ

書学
安部 董
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

書学
小金輝彦
6
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

書学
濱野里砂
4
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

MM
鈴木絵津子
2
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

彩
瀬戸紀永
飯
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

書学
西山京子
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

RU
マリナ
6
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

書学
小川美友紀
4
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

中央3
石黒知子
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

新野
高野一男
1
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

恵翠
浅香直美
9
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

書学
荒川智美
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

一楊
金子有志
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

書学
林幸子
3
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

静東
近藤敏子
飯
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

そり
加藤和佳子
9
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

恵那
井戸茂造
7
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

恵那
奥山萌子
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

豊里
大山妙子
3
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

清和
武石有希子
2
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

前田
前田綾音
10
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

青梅
辻改子
7
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

紅彩
深川奈緒
5
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

青二
蓮孫 悠子
4
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

大藤
湯浅芽子
2
粉雪ふる
常はおもひの
なき径

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

神子 吉田 浩子

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

紅形 磯崎あゆみ

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

山口 神田真理子

羽管笙歌此地達
筵數處白雲飛

玉桂 中村 桂雲

羽管笙歌此地達
筵數處白雲飛

書字 和泉 詩

東壁圖書府

有里書

香竹 三宅 有里

東壁圖書府

裕美子書

人二 安田裕美子

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

枉 石曾根紫峰

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

柏葉 工藤 香琴

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

九書 井上 恵子

羽管笙歌此地達
筵數處白雲飛

大井 千葉 弘子

羽管笙歌此地達
筵數處白雲飛

梧星 吉田 令房

東壁圖書府

於子書

北 南木 玲子

東壁圖書府

紀子書

大井 宮本 紀子

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

書字 指田 敦子

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

万里 神之田澄水

屋上添高一把茅
泥房壁似僧寮

YS 柳瀬佐代子

羽管笙歌此地達
筵數處白雲飛

書字 増田 堅二

羽管笙歌此地達
筵數處白雲飛

友和 上原万里子

東壁圖書府

草春書

書字 磯上真知子

東壁圖書府

麻弥書

書字 岡本 麻弥

東林 藤巻 桂泉
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

書学 野手 都子

藤村あゆみ
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

書学 藤村あゆみ

水荃 民輪 千春
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

水荃 民輪 千春

洗心 村松 永好
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

洗心 村松 永好

吉村 丘美
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

書学 吉村 丘美

苗 大崎 秀子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

苗 大崎 秀子

大崎 秀子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

欣書 代島 翠葉
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

大分 安部 征遠

相澤美佐子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

ブラ 相澤美佐子

僕水 三戸 明泉
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

僕水 三戸 明泉

栄 柿崎 洋子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

栄 柿崎 洋子

藤井 直子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

書学 藤井 直子

富江 白輝
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

安土 富江 白輝

白輝
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

伊能 和子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

大井 清水 英子

尾崎美和子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

書学 尾崎美和子

ハル 西山 裕江
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

ハル 西山 裕江

大西 司
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

書学 大西 司

野中 稻葉 青風
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

野中 稻葉 青風

町田百合子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

初音 町田百合子

町田百合子
春はあけぼの朝の光
あけぼの朝の光

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

神奈 坂下 蓉子

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

栄 山田 青楓

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

松声 浅野 壮子

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

山口 神田真理子

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

洗心 村松 永好

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

書学 清水 有紀

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

有紀

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

天神 田貝 康子

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

書学 坂井 知子

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

小絹 小畑 知子

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

香桜 澤水 清香

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

書学 田本亜沙子

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

書学 薗 奈美子

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

奈美子

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

九書 垣田 理恵

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

万里 神之田澄水

対岸の造船所より聞こえる鉄の響きは遠あらしむごとし

書学 森山 惠穂

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

書学 和久津久美

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

ゆめ 馬場さおり

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

芳水 柴原かおる

春までに来れば風の寒けれど真晝の川はけぶりを見ゆ

芳水

教習名 前田
氏名 前田 綾音

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 瀬谷
氏名 浅井 柊 泉

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 こず
氏名 村岡 初江

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 九才
氏名 山崎 美須子

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 湘花
氏名 阿部 のりこ

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 MM
氏名 芳賀 鳳 鳥

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 修豊
氏名 足立 新香

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 伊賀
氏名 山口 智代

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 ぬま
氏名 齊藤 和青

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 金子
氏名 金子 溪 仙

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 書学
氏名 川村 三彩子

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

教習名 八雲
氏名 後藤 佐代子

春とは名のみの字でございませう
春の足音はすぐそくに聞こえて
庭の梅もほろろびそめました

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色馨香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

光丘 上平田一代

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色馨香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 小島 黄雪

尺得如是等陀羅尼世尊若後世後五百歲濁惡世中比丘比丘優婆塞優婆塞求索者受持者讀誦者書寫者欲備習是法華經於三七日中應一心精進滿三七日已我當乘六牙白鳥与无量菩薩而自圍遶以一切衆生所喜見身現其人前而為說法示教利喜亦復与其他羅尼呪得是陀羅尼故无有非人能破壞者亦不為女人之所惑乱我身亦自常護是人唯願世尊

習志 安廣 清翠

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色馨香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 宮下 香奈

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色馨香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 棚田 恵子

尺得如是等陀羅尼世尊若後世後五百歲濁惡世中比丘比丘優婆塞優婆塞求索者受持者讀誦者書寫者欲備習是法華經於三七日中應一心精進滿三七日已我當乘六牙白鳥与无量菩薩而自圍遶以一切衆生所喜見身現其人前而為說法示教利喜亦復与其他羅尼呪得是陀羅尼故无有非人能破壞者亦不為女人之所惑乱我身亦自常護是人唯願世尊

九書 山崎美須子

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色馨香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

市書 森 留美

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色馨香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 及川 理佐

尺得如是等陀羅尼世尊若後世後五百歲濁惡世中比丘比丘優婆塞優婆塞求索者受持者讀誦者書寫者欲備習是法華經於三七日中應一心精進滿三七日已我當乘六牙白鳥与无量菩薩而自圍遶以一切衆生所喜見身現其人前而為說法示教利喜亦復与其他羅尼呪得是陀羅尼故无有非人能破壞者亦不為女人之所惑乱我身亦自常護是人唯願世尊

千翠 小宮富久子

審査評—秋山 凌雲

規定 「春如海」



書字 石井 孝夫

キレのある線質と疎密の構成が巧み。外郭の工夫も相俟って、全体に現代的な趣きで鮮やかにまとめている。



水筆 青戸佑きこ

円形の空間を巧みに活用。「海」字の整った分間を主軸に独自の存在感を放つ作品となっている。



書字 高見 敏久

甲骨文特有の鋭さを抑えた力強い線質が魅力。外郭の変化も巧みで、全体的に明るく清々しい雰囲気がある。

随意 「書癖」



春日 曾我 卓史

六分の小印ながら力強い運刀による強靱な線質の満白印。「書」の「日」を均等に割らず朱を多く残したところに非凡な才を感じる。

規定 (婦)

審査評—立川 井梧

書美の真髓を求める漢字の一字書——



桑原 佐伯 政子 筆の開閉で線の太細、筆圧の強弱の変化は多様である。余白を輝かせる。変形印の刻風も楽しめる。

九書 長谷川裕美 紙面の右寄せにした構成。淡墨の滲みの効果と線情は流動的で自在。一気の筆致は味わい深い作。

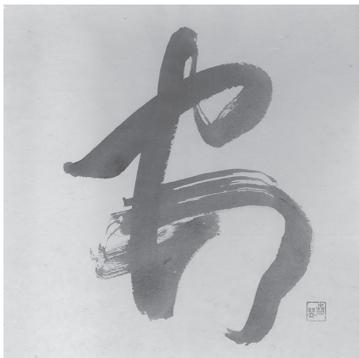
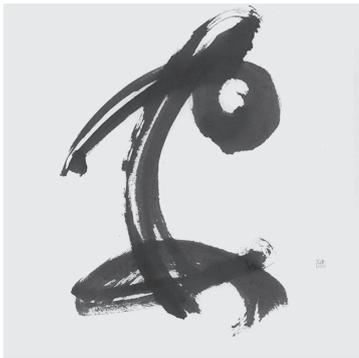
愛山 高田 佳桜 青墨を用いての草書体表現は情趣ある作。女偏に一考要するが、潤渇の表現で線に面白さが伝わる。

望水 辰巳 望水 線質の躍動に味わい深い濃厚な線。筆圧は弾力に富み活躍している。「女」の筆回転単調感と縦画の表現力は一考か。

随意 (あ)

審査評—立川 井梧

詩情や筆遣ひの極意を知る平かな表現——



百合 外山 香風 筆の突き、開閉を駆使しての匠な筆致は、線の躍動と潤渇の表現を極めている。字形変化は明朗で安定している。

三木 宮田 雲鶴 字形の重心を上部に配し、墨量の多さと筆圧の動きは絶妙に豊かである。最終画の右回転は余白を包み込む明るい線で骨力が快調。

こて 伊藤 紫香 滲みの発生しにくい紙ながら、線は食い込み充分な筆致は見事。下部の「女」の処理は偏平にして表現停止は他の範となる。

青雲 深谷 春琴 仮工紙に青墨で表現。筆の開きを一定とした筆圧ながら一瞬のリズムの中で「女」の渴筆の明るさは光明である。